

### “へのかっぱ精神”で難関突破！ 受験生へストラップ贈呈



▲ストラップを手に気合をいれる受験生

1月8日、栖本中学校の3年生18人に栖本まちづくり協議会から、“へのかっぱストラップ”が贈られました。これは、地元のかっぱ伝説にちなみ制作されているもので、受験を“へのかっぱの精神”で力強く乗り越えて欲しいと受験生に渡しているもの。

受け取った生徒は、「受験のときに必ず持って行って力をもらいたい」と話していました。

### 子どもたちへ一足早いプレゼント バス停がクリスマス仕様に



▲かわいいバス停に笑顔の児童たち

12月5日、小学生が利用するスクールバス乗り場がツリーなどで飾り付けられました。有明町上津浦の(自称)おばちゃん3人組が地域を明るい雰囲気にしようとクリスマスを前に実施したもの。

廃材に描かれたサンタや雪だるまは愛嬌たっぷり。「元気が出て楽しい」と子どもたちにも地域の高齢者にも好評で、「次のイベントが待ち遠しい」と話していました。

### 宮地岳かし村 人口増加中！ かし作りが本格化

毎年3月に開催される「宮地岳かしまつり」に向けて準備が進んでいます。1月15日には、宮地岳地区コミュニティセンターに住民20人が集まり表情を描く作業が行われました。住民交流の場と生きがいにもなっているかし作り。年々増え、この春には470体になるそう。描くときは真剣に、でも出来あがりを見て笑みを見せながら、作業にあたっていました。



▲それぞれ顔に個性が出ていい



地域おこし協力隊  
つすえ あきら  
津末 顕彰さん

本年オープンを予定している宮地岳観光交流施設の担当として昨年8月に着任しました。天草への移住は、海のそばの暮らしをイメージしていましたが、同地区は山々に囲まれた盆地で下島のへそ。そんな地域の恒例行事となった「かし祭り」には今や市内外から多くの人を訪れます。このかしは、昔懐かしい農村と人々の温かい触れ合い風景を表現しています。観光交流施設もこのコンセプトの下、天草の良さと情報、人情が集まる施設を目指しています。かし祭りは、3月29日から5月6日まで開催予定です。皆さんのお越しをお待ちしています。



## 子どもたちと 地域をつなぐ

NPO法人つわの花(有明町島子)  
☎52-0561

「生涯子どもに関わり、地域の子どもたちが集まれる場所を作りたかった」。  
そうきつかけを話すのは子育て支援センターなどを運営する「つわの花」代表の宮崎正子<sup>まほしこ</sup>さん。地域の保育園を定年退職後、元保育士仲間5人とともに立ち上げた。活動拠点となる場所が「つわのは」と呼ばれていたことや宮崎さんが幼少時代に花を摘んで遊んだ両親との思い出から名称を「つわの花」とした。子どもたちが野草のように強くたくましく成長してほしいという思いも込められている。

子育てママの悩み相談や一息つける場所になればと育児サークルとしてスタート。当初は少数の参加だったが、利用者の口コミや認知も進み、今では多くのママが集まる子育て支援センターになっている。学校の長期休業中の学童保育や放課後に小学生が集まる放課後子



れることがうれしい」と笑顔で話す宮崎さん。あいさつはもちろん、お世話になってる人の家を訪ねていく子どももいるそうだ。活動を始めて18年。利用者だったママがボランティアとして活動を支える側になるなど新たなつながりもできている。

子ども教室、小中学校に出向いての絵本の読み聞かせや地域の人を交えた夕涼み会なども行っている。民生委員や食生活改善推進委員、婦人会、ボランティアなど約20人が内容に応じて活動を支えてくれることで子どもたちは自然に地域の人と交流することができている。「昔と比べて人とのつながりが薄くなってきているが、地域の人と関わることで顔見知りになってく



▲沿道の花壇に花の苗植え



▲地域の人と餅つき



▲支援センターで童謡教室



### 光り輝く教会で聖なる夜を 大江教会でクリスマスイベント



▲子どもたちにはプレゼントも

12月24日、約15万球のクリスマスイルミネーションが輝きを放つ天草町の大江教会一帯でクリスマスイベントが開催されました。大江地域づくり振興会が実施したもので、サンタに扮したスタッフが子どもたちへプレゼントを渡し、来場者にはぜんざいでおもてなし。天草ロザリオ館では長崎大学のアカペラグループが歌声を披露し、家族連れなどが聖なる夜を楽しんでいました。

### 笑う“門松” 福来たる♪ 浦地区ミニ門松づくり交流会



▲完成した門松に笑顔を見せる児童

12月22日、浦地区コミュニティセンターで「ミニ門松づくり」が行われ、小学生から高齢者まで45人が参加しました。世代間の交流を図ろうと同地区振興会が毎年実施しているもの。

梅や松の葉などを組み合わせ竹筒に詰める作業も、楽しく取り組んでいました。みんなで作った“福”のこもった門松は、地区内の1人暮らし高齢者宅に届けられました。

### 地元の品で年始の準備 二江物産市とみんなのギャラリー



▲つき立て餅が投げられると争奪戦に

12月15日、五和漁村センターで「二江物産市」があり地元業者らが海産物などを販売しました。住民に楽しんでもらおうと、二江まちづくり振興会が主催し、盆栽や手芸作品、子どもたちの書道などが展示された「みんなのギャラリー」も同時開催。

役員や子どもたちが、早朝から餅をつき、みんなで丸めた餅約3,500個が投げられると、住民らは我先にと拾い集めていました。

### ようこそ浦河の皆さん河浦へ 友好交流都市の浦河町訪問団来市



▲河浦小学校6年生と記念撮影

1月8日から11日まで、友好交流都市の北海道浦河町から小中学生9人を含む訪問団が河浦町などを訪れました。

双方の小中学生が行き来して交流を深めているもので、崎津集落で潜伏キリシタンについて学んだり、ミカン狩り体験、学校で授業を受けるなどした子どもたち。中学1年生の岸田理俵くんは、「歴史が好きなので河浦に来て良かった」と話していました。



▲ブリは1匹ずつ計量し箱詰め

### 魚を食べるとよい年!! お正月用タイ、ブリ発送

12月28日、牛深漁港後浜荷さばき所で正月用のタイ、ブリの発送が行われました。牛深商工会議所で作る「ハイヤのふるさと牛深会」が毎年実施しているもので、今年は2,191件を受注し全国に発送しました。養殖ブリを1匹ずつ計量し、箱詰めする作業に追われた養殖業者の沖崎さんは、「赤潮が発生し心配もあったが、脂のついたおいしいブリに育った」と話していました。



▶竹馬で縄跳びだってできちゃう

### バランス感覚ばっちり! 佐伊津小学校で竹馬会

12月20日、佐伊津小学校で伝統の竹馬会があり全校児童が竹馬を楽しみました。1977年から続いており今年で42回目。12月からマイ竹馬で朝時間や昼休みに練習を始め、長縄跳びやサッカーを楽しむ猛者もいました。最後の参加となった6年生の井上来翔くんは、「練習してやっと走れるようになりリレー代表にも選ばれた。楽しい竹馬会だった」と笑顔を見せていました。

### はまぼう群生地に優しい灯り 竹灯笼イルミネーション



▲竹灯笼の灯りに笑顔を見せる子どもたち

12月21日、新和町のはまぼう群生地駐車場に竹灯笼が設置され、点灯式が行われました。地域にある竹を活用し、気軽に集える憩いの場を作ろうと大宮地竹灯笼組合が初めて実施したもので、午前中から設置を始め、点灯式には雨にも関わらず、約100人が来場。竹灯笼に明かりが灯されると、歓声があがり辺りは幻想的な雰囲気になりました。同組合の船元隆成代表は、「若い力で地域を盛り上げていきたい」と話していました。

### 帰省客を門松がお出迎え 棧橋に門松を飾り付け



▲御所浦漁港の棧橋に門松を設置する住民

12月25日、御所浦漁港本郷棧橋に手作りの門松が飾り付けられました。帰省客などに新年を気持ちよく迎えてもらおうと、御所浦地区振興会が毎年行っているもの。濱本富士隆会長は、「今年も良いものできた。島で気持ちよく新年を迎えてほしい」と笑顔で話していました。横浦漁港・与一ヶ浦港湾の棧橋にも、各地区の有志が門松を飾り付け、帰省客らを出迎えました。